

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400013		
法人名	有限会社 小春日和		
事業所名	グループホーム小春日和		
所在地	三重県亀山市南野町12-13		
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果市町提出日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2490400013-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社		
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1		
訪問調査日	令和5年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が今まで生まれ育った環境や、家庭での関係性を理解し、施設でも個性ある生き方を継続できるようにしています。健康寿命を延ばし、伸び伸びとした生活を送れるように、毎日バイタル測定し、検温だけでなく顔色や表情も観察して異常がないか確認をしています。体力維持と筋力低下の予防は、体操(リハビリ体操・ラジオ体操・足踏み体操)を職員と一緒にを行い、利用者のやる気を引き出すようにしています。コロナ感染対策として、コロナワクチン接種を施設で推奨していて、ご家族様に了承の上で接種しています。利用者と職員が元気で明るくて家庭的な雰囲気をつくり、利用者が毎日を楽しく過ごせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“一人ひとりの尊厳を大切に”をモットーとした介護サービスにあたり、行き過ぎた介護サービスではなく、利用者の自立性を重視した暮らしが継続されるよう配慮した支援が行われている。
住宅街の中にある施設であるため、周囲は一般住宅街であるが、前庭(駐車場)を利用しての外気浴の機会を作り、地区の祭り時には神輿の休憩場として提供するなど、地域との交流が心掛けられている。毎日の生活では、日課を決めるのではなく、一人ひとりの思い、尊厳を重視して、好みの活動ができる支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、利用者の願いや思いを傾聴受容して尊敬の念を持って接し、利用者の自立支援に繋げていく。	日々の支援の中で、利用者個人の尊厳を重視し本人の自立性を大切に介護サービス提供を目指し、職員相互に利用者に対する対応を注意し合いながら、一人ひとりの個性に合わせた支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報提供があれば、参加を心掛けられている。地域の祭りでは、神輿担ぎの休憩場として、施設の駐車場を提供している。地域の住民ボランティアの方々との連携が取れている。	最近のコロナ過の中では、地域行事等も中止され、コミュニティーの一員として参加する機会は無くなっている。	地域のボランティア(楽器演奏、フラダンス、など)に協力を要請して、広い駐車場を活用しての開催を計画し、近隣にもその行事を紹介して訪問してもらうなど機会創出が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の様子を職員会議議事録に記録して、運営推進会議で出席されている民生委員や自治会長にお知らせして理解を得ている。ここ数年は、コロナ禍で資料の配布をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や施設行事の報告、新しい取り組み・問題点などを報告している。コロナ禍で参加者の意見は資料配布時に個別に伺っている。	テーマを決めてアンケートを行い、出てきた意見や結果をまとめて、報告することを計画している。会議メンバーとして利用者家族にも代表を依頼し、3名に交代で年2回ずつ参加して貰い、意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の入退居を報告している。事業所の運営や利用者に関する相談やアドバイスをしてもらっている。	広域連合へは、毎月利用者状況の報告をし、市からは研修等の情報提供をもらい、できる限り参加する様にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修会や身体拘束廃止委員会を開催しており、日々の業務で職員全員で身体拘束をしない介護を心掛けている。	身体拘束については、事業所独自のマニュアルも作成して、職員研修や勉強会を通じて職員の認識や自覚を高めている。スピーチロック等言葉による拘束も職員相互に注意し合って「しないケア」を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員の業務態度に細心の注意を払い、虐待の防止に努めている。職員は、利用者と関わる際に、適切な対応をするように心掛ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象の利用者は、親類縁者が対応して問題はないそうです。権利擁護の研修会があれば、参加をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者と家族さんに内容を理解してもらい、そして、納得して頂けるように丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時に利用者の様子をお知らせすると同時に、意見や要望を聞くようにしていく。今後の運営に反映できるように展開すること。	コロナ禍で面会の機会に制限が設けられているため、家族の意見が聞ける機会は減っているが、電話連絡や医療機関受診の機会などで家族の思いや意見を聞き取る努力が行なわれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「職員意見交換ノート」の活用により、職員の意見を反映できるようにしている。介護についての職員の意見は、ミーティング(職員会議)を設けている。	午後のミーティングを活用して「意見交換ノート」の内容を共有しながら、相互に意見を出し合っている。移動にエレベータ使用となっている利用者に対し、状況観察を基に体調が良い時には運動を兼ね階段使用となったのも職員意見反映の一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の要望を聞くようにしていて、身体的や精神的に無理の無いように配慮している。向上心を持って働ける環境と条件を整えていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に研修等の参加を呼びかけていて、希望があれば研修に参加してもらう。職務に対して、やりがいのある職場を目指していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加して交流の機会を持ったり、他の事業所とのネットワークづくり構築で情報収集が出来るようにしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困りごとや不安や要望などを傾聴する。課題分析をしっかりとした上で、本人と信頼関係構築が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや不安や要望などを傾聴する。課題分析をしっかりとした上で、家族と信頼関係構築が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている課題を見極めてニーズを把握し、総合的な援助が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が、介護理念を念頭に置き、家庭的な雰囲気の中で接するようにしている。業務に就く前に、職員意見交換ノートや引き継ぎノートや日誌を確認して業務に入るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の来訪時に施設での本人の様子を説明して、安心して家族を任せられる施設にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と一緒に歌を楽しんでいる。昔を回想するなど、心地良い時間を共有することを大切にしている。仲の良い利用者同士で、会話を楽しく過ごせるようにしている。	入所までの馴染みの主治医の継続を大切に、受診時には、職員と家族にも同行を依頼し、往復時になじみの場所に立ち寄るなどして馴染みの人や場所の関係性継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に過ごし、共に支え合い、みんなで協力しながら仲良く暮らせるように支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の利用で困り事や施設利用が困難になった場合、家族へ情報提供したり必要に応じて相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に会話の機会を持つようにして、思いや要望を聴き、出来るだけ利用者主体となるよう支援を心掛けている。	食事時や、午後の余暇時間などに会話の機会を多くし、利用者の希望や思いを汲み取る努力がなされている。意思表示が困難な利用者には、様々な方法でアプローチを試み、把握できた意向は職員全員で共有して支援する取り組みが為されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、家族や知人からの情報収集をしていくことで、いろんな話を聞いて整理して、施設での生活に生かしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定で体調管理をしていて、表情を見ながら心境の変化を観察し、精神的安定を得ることができよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に自立支援に向けた、課題点や介助方法を職員全員で話し合っている。新たに生じた問題点に於いては、職員会議などで議論して解決方法を模索している。	日々の個別ケア日誌でモニタリングして記録をとり、職員会議で、一人ひとりの日常の状況を確認し、話し合い、介護計画の見直しを行い、問題解決や改善に取組み、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々にあるケアの課題点とケアの方法について、介護計画の則った記録だけではなく、いろんな気づきを記録して、新たな課題を見つけていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望や思いを出来るだけ尊重して支援を行っている。定期的な受診時に家族へ身体状況を報告しており、緊急時には施設で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清閑な住宅街で環境も良く、天気の良い日には散歩、ボランティア交流で地域の住民とふれあいの場を設けている。敬老の日には、近隣の幼稚園児からの贈り物がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診支援を行っている。受診の際に身体状況の報告し、お薬を処方して貰っている。緊急時には、主治医に報告して指示を仰いでいる。	本人や家族の希望するそれまでの主治医との関係を継続し、受診時は職員が同行して、状況の詳細を伝えることで、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が施設に居ない。関わり合いは、ほぼ無く、訪問看護の利用もしていないので、緊急時は、主治医と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、身体状況やお薬の情報を看護師へ提供している。退院時には、退院される前に、利用者の状態などを収集して安心できる支援を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との協働の基、当施設として出来ることを十分に説明して施設の方針を伝え、家族の理解が得られた場合は、チームで支援を行っている。	在宅医療機関と契約することで、終末期が近い利用者には、今後の対応を家族や主治医と相談し、家族の希望に合わせて職員、主治医、家族とでチームとしての協力体制を構築し、看取りの支援が行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の疾病や既往歴や薬剤の情報は記録している。事故や急変時の対応は、マニュアル作成されており、職員全員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災・防災訓練を実施している。訓練実施の際には、地域の住民へお知らせして協力体制を築いている。	緊急時対応マニュアルは毎年見直しを行ない、利用者全体の身体状況の変化に合わせて訓練をしている。	多くの利用者は2階で、今は大した支援なく避難、移動ができていたが、夜間等の職員が一人の時間帯を想定して、どのように誘導するのか等の検討や、必要により近隣者の協力体制の構築も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーの確保や尊厳のある生活を提供している。ケアでは、職員の言葉遣いや態度にも注意を払って業務に就いている。	トイレや入浴の誘導など、一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重した声掛けを重視し、日頃から職員のスキルアップと意識改革を目指し、勉強会や研修の受講などによる研鑽に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定出来るように、職員が穏やかな雰囲気と柔軟な対応で傾聴し、些細な事でも受容して支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の主体性を重んじ、実家で暮らしていた生活リズムを継続できるようにな支援をしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の格好や普段の服装などは、本人の主体性を重んじており、自分で判断できない利用者には、職員が好みを聴きおしゃれを手助けし、楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼と夕食は業者の宅配サービスの利用している。また、定期的に利用者の希望を聞き入れて、職員が手作りの料理を振舞っている。誕生会や季節行事では、洋菓子などを提供し楽しんでもらっている。	給食事業者を活用しているが、毎月“お楽しみ食”として利用者の希望を聴き、職員が手作りして提供している。食事時は利用者の出来る範囲で片付けやテーブル拭きなど職員と一緒にこなしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を重要視している。食事形態も個々に合わせ提供しており、嚥下の悪い利用者には、食べる姿勢を良くしてもらったり、見守りや声掛けも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや嗽を励行している。夕食後には義歯がある利用者は預かり洗浄し、紛失しないように管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄リズムを把握した上で、排泄介助を行う。トイレ介助チェック表を活用して排泄管理もしている。一人でトイレに自主的に行けるようにと、環境面で工夫もしている。	「排泄介助チェック表」で個々の排泄リズムを記録して声掛けを適時行うことで、排せつ自立の継続にむけた支援を行っている。またなるべく薬を使わない自然排便を心がけ、便秘解消のマッサージ体操と食品の工夫も日常的に進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り下剤を使わない自然排便を目指しており、食事摂取量・水分摂取量や、適度な運動を毎日行っている。それでも排便がない場合は下剤で管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回である。入浴剤を使用して、温泉気分を出したり皮膚に有効な成分で保湿もできるようにしている。個々に合わせた温度調整もしている。	色々な入浴剤を使用することで温泉の雰囲気を感じ出して、楽しみながら入浴できるよう工夫している。また週2回、職員の勤務体制を考慮しながら、時間帯や順番に偏りが無いように入浴順番表を作成することで不公平感が出ないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は身体を動かす支援を重視しており、利用者の体調に応じて休息支援を行っている。夜間は温度と湿度の管理で、快眠できるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬剤情報は、一覧表にしており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬介助は、きちんと飲み込むまで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前にはリハビリ体操・ラジオ体操・足踏み体操・脳トレーニング訓練を実施し、午後にはリズム体操・レクリエーション活動・おやつを実施している。コロナ禍で、ボランティア交流を中止している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力での受診。季節行事(ドライブ行事・公園散策等)で外出支援を行っている。気候によって施設の外周を散歩したり、施設の駐車場で日光浴をしている。	コロナ禍での外出は制限が出ているが、ドライブ行事や近くの公園に出かけてピクニック気分でおやつを食べたり、前庭(駐車場)での日光浴や周辺散歩で、開放的な気分で利用者同士の交流を楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者はいない。買い物支援は、金銭感覚と売り物と理解できない為に行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者が、現段階で居ない為支援していない。家族から施設に掛かってきた電話は、電話相手の承諾を得て取り次いで会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はカーテンで遮断して、来賓が見えないようにしている。トイレは消臭剤で臭がないようにしている。温度と湿度の管理、空気清浄機の設置もしており、心地良い空間づくりを提供している。	共用空間は広くはないが、職員側からは利用者全員の顔や動向が見渡せ、その時々状況に素早く対応できている。居心地よく過ごして貰うために座席位置にも配慮している。全体的に清掃が行き届き整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゲストルームの空間は狭くないが、利用者同士の雑談もできる。テーブルの相席は、気の合った利用者同士が隣になるように工夫しており、気分が落ち着ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良くできるように、プライバシーを重視している。居室には、本人の馴染みの物を家族から持ってきてもらって置いたり、テレビやラジオを楽しめるようにしている。	それぞれ馴染みのものや使い慣れた家具を持ち込んで貰い、在宅生活の延長を感じながら落ち着いて生活できるように配慮され配置されている。家から好きなぬいぐるみを持ち込んで一緒に寝て安らぎを得ている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全と安心が保たれるように、また、出来るだけ自立した生活が送れるように環境整備をしており、生活に必要な情報を掲示し不安がないように工夫している。		